

「国民総親孝行計画」(20020827)

以前、僕が「グリム3」で書いたのを読んで思いついたわけではないだろうけれど、近く政府は「国民総親孝行計画」を発表する。

やっぱり、僕の考えることなんて、とつくに誰かさんが考えていたんだ。

高度経済成長時代の終わり頃から、「このまま国民の親不孝化が進むと、いずれは日本という国の根幹が揺るぎかねない」と主張する学者はいた。政府も当時の文部省を中心に、親不孝化が進んだ場合の問題点を研究していたが、この研究を公表すると、国が「国民の多くが親不孝である」とあえて認めることになり、その際のマスコミ等の反応、またそれに対する対応策等を考えるうちに腰が引けてきて、今に至るまで研究成果の発表を見送ってきた。

しかしながら最近になり、今後「少子高齢化」が加速度的に進むことを原因とする数々の難題のほとんど全てが、国民一人一人が今よりずっと「親孝行」になることによって解決することがわかってきたため、政府もこの度思い切って「国民総親孝行計画」として発表することにした。

他の先進国との比較

日本を100とした場合の各先進国の親孝行指数は下記の通りである。

アメリカ	181
イギリス	220
ドイツ	160
フランス	158
イタリア	245
スウェーデン	144
韓国	321
シンガポール	177

一体何を基準として、どんな計算方法で出された数字かさっぱりわからないが、出てきた数字は、何となく僕の予想していた通りだった。

これを見ても、日本という国は予想以上に親孝行離れが進んでいることがわかる。

特筆すべきは韓国の突出した高さである。

「儒教の国」と言われている韓国であるが、現実には仏教徒やキリスト教徒が多いことを考えると、この親孝行指数の高さは、この国が決して「儒教の国」だからという理由だけではなさそうだ。地理的にも近く、特に今年はサッカー・ワールドカップを共催した友好国である韓国を「親孝行先進国」「親孝行大国」として日本が見習うべき点は多い。

とりあえず、日本としては同じアジアのシンガポールを目標として、せめてスウェーデン並の「親孝行中堅国」と呼ばれるくらいまでにはなりたいたいものだ。

国民改造具体策

内閣府の下に「親孝行庁（仮名）」の設置が検討されている。

現在、文部科学省、厚生労働省が中心となって具体策の研究が続けられているが、いわゆる縦割り行政の弊害もあり、責任の所在を明らかにする意味でも、新たな専門省庁の設置の必要性が生じた。

現在具体策として明らかにされているものとして、

1. 義務教育の中に新たに「親孝行」に関する教科を設ける。
2. 親孝行を社会全体に普及させることを目的として、新たに「親孝行普及指導員」を養成する。

なお、「親孝行普及指導員」になるための国家資格として「親孝行普及指導員資格」新たに設けることとし、近く「親孝行普及指導員資格研究委員会」を設置する。

委員の中に「親孝行マスター」を自認し、広く世間に「親コラー」（親孝行を楽しみながら行う人）を普及させることに積極的に努力している漫画家のみうらじゅん氏も含まれる予定である。

3. 親孝行に関する市民の窓口として、市・区役所に「親孝行課」を設置する。

4. 韓国に、小中学生による「親孝行親善大使」を定期的に派遣し、親孝行先進国である韓国の実情や具体的な親孝行、親孝行による社会影響などを学ばせる。

親不孝者大国日本を親孝行中堅国にもっていくことは、一筋縄にはいかないだろう。自分の胸に手を置いて、自分の親孝行履歴を思い出そうとしても、ほとんど何も思い浮かばない。偉そうなことを書いてみても、今更ながらに自分自身の親不孝さに愕然としてしまう。

親不孝者は僕らの世代までで十分だ。僕らの子供から下の世代には、なんとしても立派な親孝行になってもらうよう、これから政府から出される「国民総親孝行計画」には大いに期待したい。

超短編シリーズはフィクションです。念のため